

令和7年度開講科目 講義シラバス

理学療法学科
昼間コース
1年

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

令和7年度 年間予定

理学療法学科(昼間コース)

	第1学年	第2学年	第3学年
前期	入学式 4月3日(木)	始業 4月7日(月)	始業 4月7日(月)
	面談 4月1日(火) ~ 随時	面談 4月1日(火) ~ 随時	講義 4月7日(月) ~ 4月11日(金)
	講義 4月7日(月) ~ 7月18日(金)	講義 4月7日(月) ~ 7月18日(金)	6月9日(月) ~ 6月20日(金) 8月18日(月) ~ 8月22日(金)
	補講・定期試験期間 7月22日(火) ~ 8月8日(金) 8月12日(火)~14日(木)予備日	補講・定期試験期間 7月22日(火) ~ 8月8日(金) 8月12日(火)~14日(木)予備日	臨床実習Ⅲ ①4月14日(月) ~ 6月6日(金) ②6月23日(月) ~ 8月15日(金)
	夏季休業 8月15日(金) ~ 8月31日(日)	夏季休業 8月15日(金) ~ 8月31日(日)	
	再試験(対象者のみ) 8月21日(木) ~ 8月29日(金)	再試験(対象者のみ) 8月21日(木) ~ 8月29日(金)	臨床実習Ⅳ ※ ①6月16日(月) ~ 8月29日(金) ②8月25日(月) ~ 10月31日(金)
	講義 9月1日(月) ~ 12月12日(金)	講義 9月1日(月) ~ 12月12日(金)	
後期	補講・定期試験期間 12月15日(月) ~ 12月26日(金) 1月 5日(月) ~ 1月9日(金) 1月13日(火)~15日(木)予備日	補講・定期試験期間 12月15日(月) ~ 12月26日(金) 1月 5日(月) ~ 1月9日(金) 1月13日(火)~15日(木)予備日	学内就職説明会 6月12日(木) 合同就職説明会 8月23日(土)
	冬季休業 12月29日(月) ~ 1月3日(土)	冬季休業 12月29日(月) ~ 1月3日(土)	
	再試験期間(対象者のみ) 3月2日(月) ~ 3月13日(金)	再試験期間(対象者のみ) 3月2日(月) ~ 3月13日(金)	講義および国家試験対策 11月4日(火) ~ 2月20日(金)
	臨床実習Ⅰ 1月19日(月) ~ 2月28日(土)	臨床実習Ⅱ 1月19日(月) ~ 2月28日(土)	第61回 国家試験 2月23日(祝・月)予定
	春季休業 3月16日(月) ~ 3月31日(火)	春季休業 3月16日(月) ~ 3月31日(火)	卒業証書授与式 3月6日(金)

※ 臨床実習Ⅳは学内評価期間を含む。

学校法人 巨樹の会		小倉 リハビリテーション学院		理学療法学科		昼間コース		カリキュラム				
分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		時間数	単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人文科学	心理学	30						30	2	
			自然科学	統計学				30			30	2
		コミュニケーション学		情報処理				30			30	2
			物理学	30						30	2	
			基礎教養		30					30	2	
			対人関係演習 I	30						30	2	
	対人関係演習 II		30					30	2			
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学 I	30						30	2	
			解剖学 II		30					30	2	
		生理学	生理学 I	30						30	2	
			生理学 II		30					30	2	
		運動学	運動学 I	60						60	4	
			運動学 II		30					30	2	
			運動学演習 I	30						30	2	
			運動学演習 II		30					30	2	
		人間発達学	人間発達学		30					30	2	
		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学 I	30						30	2
	リハビリテーション基礎医学 II				30					30	2	
	臨床医学総論		医学概論	30						30	2	
			病理学概論			30				30	2	
	臨床医学各論		整形外科学			30				30	2	
			内科学			30				30	2	
			神経内科学			30				30	2	
			臨床心理学		30					30	2	
			精神医学		30					30	2	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法 I	30					30	2	
				リハビリテーションと理学療法 II	30					30	2	
	専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学 I	30						30	1
基礎理学療法学 II				30						30	1	
生活機能演習						30				30	1	
臨床運動学		臨床運動学演習 I		30					30	2		
		臨床運動学演習 II			30				30	2		
理学療法管理学		理学療法管理	理学療法管理学				30		30	2		
理学療法評価学		理学療法評価学	基礎評価学演習 I	60						60	2	
			基礎評価学演習 II		60					60	2	
			基礎評価学演習 III			60				60	2	
			臨床評価学演習 I	30						30	1	
			臨床評価学演習 II		30					30	1	
理学療法治療学		運動療法学	運動療法学演習		60					60	2	
			物理療法学		30					30	1	
		日常生活活動学	日常生活活動学演習 I			30				30	1	
			日常生活活動学演習 II				30			30	1	
		義肢装具学	義肢学			30				30	1	
			装具学				30			30	1	
		疾患別理学療法学	疾患別理学療法学	中枢神経疾患の理学療法学 I			60				60	2
				中枢神経疾患の理学療法学 II				60			60	2
				運動器疾患の理学療法学 I				60			60	2
				運動器疾患の理学療法学 II					60		60	2
				内部障害系疾患の理学療法学 I				60			60	2
				内部障害系疾患の理学療法学 II					60		60	2
				小児疾患の理学療法学					30		30	1
				理学療法学技術演習 I				60			60	2
理学療法学技術演習 II								60		60	2	
理学療法総合学習				理学療法総合学習 I						60	60	2
		理学療法総合学習 II						60	60	2		
		理学療法総合学習 III						60	60	2		
地域理学療法学		地域理学療法学	生活環境学				30		30	2		
			地域理学療法学演習				30		30	2		
臨床実習		臨床実習	臨床実習 I		45					45	1	
			臨床実習 II				45			45	1	
			臨床実習 III					360		360	8	
			臨床実習 IV					450		450	10	
* 基礎分野：講義15～30時間1単位			基礎分野	90	60	0	60	0	0	210	14	
* 専門基礎分野：講義・演習15～30時間1単位			専門基礎分野	270	240	120	0	0	0	630	42	
* 実習30～45時間1単位			専門分野	150	210	360	450	30	180	1380	51	
* 専門分野：同上			実習	0	45	0	45	810	0	900	20	
* 臨床実習：40～45時間1単位			前期・後期小計	510	555	480	555	840	180	3120	127	
			前後期合計	1065		1035		1020				

シラバス

I . 基礎分野

講義科目	心理学		
担当講師	都能 美智代		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	①人の行動と心理を理解するための基本的な知識と考え方を学ぶ。 ②心理学的見方を身につけ、援助の対象となる人の心理や行動を理解する糸口を見つけられるようになることを狙いとする。		
No	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	心理学とは何か？	①オリエンテーション。 ②心理学とはどのような学問なのか理解する。	
2	感覚と知覚	①感覚と知覚を理解する。 ②知覚の仕組みと働きについて理解する。	
3	記憶	①記憶のメカニズムを理解する。 ②記憶の分類と種類を理解する。 ③忘却の理論を理解する。	
4	知能	①知能とは何かを理解する。 ②知能検査方法を理解する。	
5	学習	①古典的条件づけの基本原則を理解する。 ②オペラント条件づけを理解する。 ③認知学習を理解する。	
6	感情	①感情とは何かを理解する。 ②感情のメカニズムを理解する。 ③感情の3要素について理解する。	
7	動機付け	①動機づけの役割、種類を理解する。 ②葛藤と欲求不満を理解する。 ③動機づけの理論を理解する。	
8	性格	①性格の形成を理解する。 ②性格の理論を理解する。 ③性格の測定方法を理解する。	
9	防衛機制	①フロイトの構造論を理解する。 ②防衛機制とは何かを理解する。 ③主な防衛機制の種類を理解する。	
10	社会と集団	①社会的認知を理解する。 ②態度と説得的コミュニケーションを理解する。 ③集団の機能とリーダーシップの理論を理解する。	
11	発達1	①発達の概要を理解する。 ②主要な発達理論を理解する。	
12	発達2	①各発達時期の特徴と課題を理解する。	
13	医療と対人援助	①対人援助の条件や機能を理解する。 ②患者の心理特性を理解する。 ③死の受容過程を理解する。	④援助者のバーンアウトを理解する。
14	ストレスマネジメント	①ストレスとは何かを理解する。 ②ストレスによる生理学的変化を理解する。 ③ストレスマネジメントの方法を理解する。	
15	まとめ	理解度に合わせて補足を行う。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	系統看護学講座 心理学	山村豊 高橋一公	医学書院
参考図書等	エッセンシャルズ心理学「第2版」 心理学的素養の学び	二宮勝己他	福村出版
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	人の気持ちを理解、支援していくための基礎科目であり、国家試験にも出る重要な科目です。内容も広いので、授業前に該当する教科書の章を読んでおくとう理解がより深まります。興味を持って主体的に学習してください。		

講義科目	物理学					
担当講師	松浦 優太			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。 ②リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	物理学で学習すること	①基本単位と組立単位 ②理学療法・作業療法と物理学				
2	物理量とその表し方 (1)	①物理量 ②ベクトル量とスカラー量				
3	物理量とその表し方 (2)	①大きい数、小さい数の表し方 ②指数の計算 ③有効数字とその計算				
4	物理学で使うグラフと関数 (1)	①数式とグラフ ②三角関数 (1)				
5	物理学で使うグラフと関数 (2)	①三角関数 (2) ②ベクトルの計算				
6	いろいろな運動 (1)	①位置と変位 ②速度、加速度 ③等速直線運動				
7	いろいろな運動 (2)	①等加速度直線運動 ②自由落下、鉛直投げ上げ ③水平投射				
8	さまざまな力 (1)	①力とは、力の単位 ②重力 ③張力				
9	さまざまな力 (2)	①垂直抗力 ②摩擦力 ③弾性力、圧力				
10	力のつり合いと運動の法則 (1)	①力の合成と力のつり合い ②慣性の法則（ニュートンの第1法則） ③遠心力				
11	力のつり合いと運動の法則 (2)	①運動方程式（ニュートンの第2法則） ②作用反作用の法則（ニュートンの第3法則）				
12	物体の重心と回転運動 (1)	①剛体の回転運動 ②力のモーメントのつり合い ③重心と重心の求め方				
13	物体の重心と回転運動 (2)	①剛体の運動と剛体にはたらく力 ②力のモーメントと3つのでこ				
14	運動量、仕事とエネルギー (1)	①運動量と力積 ②仕事と仕事率 ③運動エネルギー				
15	運動量、仕事とエネルギー (2)	①位置エネルギー ②力学的エネルギー保存の法則				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	PT・OTゼロからの物理学		望月久・棚橋信雄		羊土社	
参考図書等						
授業方法	テキストを中心に講義を行う。練習問題などの演習を適宜取り入れる。必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	運動学履修における必要な知識であるとともに、国家試験に出題される部分を中心に講義を行うため、ただ憶えるのではなく理解をすること。					

講義科目		基礎教養					
担当講師		井上 祥教			授業時間数	30	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。 文章表現における基本事項を理解し、読みやすく分かりやすい表現力を身につける。 文章表現だけではなく、生活上必要となる敬語表現、通信文の書き方も理解する。 					
No	講義計画	行動目標（学習目標）					
1	<ul style="list-style-type: none"> 国語力の把握と目標の確認 文章作成（1） 	<ul style="list-style-type: none"> 表現に関する導入問題を解き、解説を行なう。 講義目標及び予定についての説明を行う。 250字程度の課題文を書かせ、学生の表現力を確認する。 					
2	<ul style="list-style-type: none"> 敬語表現（尊敬語）について 分かりやすい表現に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 尊敬語を理解する。 主語と述語のねじれを理解する。 					
3	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 通信文の基本について（1） 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 縦書き通信文の書き方を理解する。 					
4	<ul style="list-style-type: none"> 敬語表現（謙譲語）について 分かりやすい表現に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 謙譲語を理解する。 主語と述語のねじれを踏まえ、正しい関係を理解する。 					
5	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 通信文の基本について（2） 文章の作成（2） 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と使い方について理解する。 記書きの通信文の書き方を理解する。 主語と述語の関係を踏まえた250字程度の課題文を作成する。 					
6	<ul style="list-style-type: none"> 敬語表現（丁寧語）について 間違いやすい敬語について 句読点の打ち方について 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧語を理解する。 尊敬・謙譲・丁寧を踏まえ、間違いやすい敬語表現を確認する。 正しい句読点の打ち方を理解する。 					
7	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 通信文の基本について（3） 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 横書き通信文の書き方について理解する。 					
8	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 修飾語と被修飾語について 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 修飾語と被修飾語の関係を理解する。 					
9	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 敬語の補足説明 文章作成（3） 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 美化語、敬語の連接、二重敬語について理解する。 修飾語と被修飾語の関係を踏まえた文章を作成する。 					
10	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味と用法について 通信文の書き方の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の意味・使い方について理解する。 通信文に関する問題を通して、縦書き、横書きの書き方を確認する。 					
11	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の確認 表現上の具体と抽象について 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 具体的表現と抽象的表現について理解する。 					
12	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の確認 文章作成（4） 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 具体的内容の文章を作成する。 					
13	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の理解 表現上の一文一意について 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 一文一意の文が分かりやすさの基本であることを確認する。 					
14	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の理解 文章の構成について 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 文章の基本である構成について理解する。 					
15	<ul style="list-style-type: none"> 表現のための文法事項の確認 敬語表現の理解 文章作成（5） 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい文章表現について理解する。 敬語問題を通して敬語の理解を深める。 最後に、学習した内容を踏まえた文章を作成する。 					
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年		
	・学院で作成したテキスト冊子と問題冊子		小倉リハビリテーション学院				
参考図書等							
授業方法	講義形式・演習形式		成績評価方法	定期試験、小テスト、作成文書により評価する。			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語、句読点、修飾語と被修飾語の3点をしっかり抑えれば、大概の文章は書けると言われています。そこに具体的と一文一語が加わればさらに良い文章が書けるはずです。一時間一時間を大切に、文章力の向上を目指してください。 						

講義科目	対人関係演習 I					
担当講師	川崎 亮佑			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	倫理とは何か	①倫理は人間関係の在り方についての社会的要請であることを理解する。 ②倫理と道徳及び法の関係を理解する。 ③社会的要請に応じる倫理的に適切な行動選択の構造を理解する。				
2	医療専門職の倫理原則	①医療専門職の基礎となる「誠実」「忠誠」を理解する。 ②医療・医療研究における倫理の4原則を理解する。				
3	自己過程①	①他者を理解する(社会的認知)。自己と他者。				
4	自己過程②	①集団の中の個人 ②集団における人間関係(職場を中心に)				
5	対人認知	①人の印象を捉えるメカニズム ②人間関係を認知するメカニズム				
6	コミュニケーション技法①	①みること、きくことの技法を学ぶ。 ②傾聴と共感的理解の技法を学ぶ。 ③人間関係における共感・思いやりの重要性を理解する。				
7	コミュニケーション技法②	①自己を表現する。 ②意図を明確に伝える。				
8	人間関係①	①障がい者の家族関係（グループディスカッション） ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。				
9	人間関係②	①セラピストと対象者の関係（グループディスカッション） ②事例を提示してグループディスカッションを実施する。				
10	対人ストレスとソーシャルサポート	①ストレスとは何かを理解する。 ②人間関係の支え合いを理解する。				
11	コミュニケーション実習諸注意	①実習施設の社会的役割を知り、施設におけるルール、マナーを理解する。 ②実習施設における対象者の特徴を理解する。 ③実習における傾聴及び共感課題を理解する。				
12	施設実習 I・①	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
13	施設実習 I・②	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
14	施設実習 I・③	高齢者デイサービス施設におけるコミュニケーション実習を行い、対象者の話を傾聴しかつ対象者を共感的に理解する経験を行う。				
15	振り返りセミナー	①グループディスカッションを行い施設実習の体験を共有する。 ②体験を通じ傾聴及び共感的理解に必要な技術は何か話し合う。 ③対人関係における自己課題を確認する。				
教科書	書籍名		著者	出版社		
	ケア・コミュニケーション（電子版付）		松田 美幸	ウイネット		
参考図書等	患者さんがみるみる元気になる リハビリ現場の会話術		矢口拓宇	秀和システム		
授業方法	グループディスカッションを中心に適宜講義を交える必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	レポート（5割） 施設実習の評価（5割）		
履修上の注意	対人職としての基礎を学びます。講義で学んだ内容を基に施設演習で実践していきます。普段の生活から対人援助には何が必要であるかを考えながら、行動をしていきましょう。					

講義科目	対人関係演習Ⅱ					
担当講師	原田 薫			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	オリエンテーション	①科目概要及び目的を理解する。 ②対人援助職に必要なコミュニケーションの基礎を復習する。				
2	ボランティア活動について	ボランティア活動の意義について理解することが出来る				
3	情報収集	フィールドワーク内容について情報収集を行い、課題を選択できる				
4	フィールドワーク企画①	自らが選択した課題について計画立案が出来る				
5	フィールドワーク企画②	自らが選択した課題について計画を発表することが出来る				
6	フィールドワークの実践①	現地研修				
7	フィールドワークの実践②	現地研修				
8	フィールドワークの実践③	現地研修				
9	フィールドワークの実践④	現地研修				
10	発表と相互評価	課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う				
11	発表と相互評価	課題内を振り返ることが出来る 各自の取り組み内容について発表を行う				
12	課題の振り返り	事後報告としてレポート作成をすることが出来る				
13	人間関係について	人間関係について自らの考えをまとめることが出来る				
14	患者との人間関係について	患者との人間関係についてグループで話し合うことが出来る				
15	地域における人間関係	地域における人間関係についてグループ発表をすることが出来る				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	特に指定しない					
参考図書等	特に指定しない					
授業方法	グループワーク、フィールドワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	提出物、課題への取り組み状況を総合的に評価する。		
履修上の注意	対人関係演習Ⅰで学んだことをふまえ、適切なコミュニケーションや態度で対象者に関わることができるよう常に自己洞察を行っていくこと。また、普段の学内生活から身だしなみや態度に気をつけて行動をしていくこと。					

II. 專門基礎分野

講義科目	解剖学 I				授業時間数	30	
担当講師	秋山 嘉和 奥之山 峻			実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2	
教育目標	正常な人体の骨格・筋系・関節と靭帯・消化器系・呼吸器系・循環器系を学び、形態および構造を理解する。						
No	講義計画	行動目標（学習目標）					
1	解剖学総論（人体の構成・人体の発生）	①人体の概要と解剖学的用語を理解する。 ②人体を構成する細胞・組織・器官の概要を理解する。 ③人体の発生の概要を理解する。					
2	骨学総論、関節靭帯総論	①骨の形態・構造および骨の血管と神経について理解する。 ②骨の機能と発生を理解する。 ③骨の連結と関節の構造と機能を理解する。					
3	消化器系 構造	①内臓器官の全体構造を理解する。 ②消化器系の内臓を理解する。					
4	消化器系 消化吸収	①消化管の基本構造と附属腺の構造と機能を理解する。					
5	筋系総論	①筋組織の種類と特徴および骨格筋の構造を理解する。 ②骨格筋の作用を理解する。 ③骨格筋の神経支配を理解する。					
6	頭部の骨格と関節・咀嚼嚥下に関わる筋	①頭蓋の構成及び頭蓋を構成する個々の骨を理解する。 ②頭蓋腔と外部の交通を理解する。 ③頭蓋の連結：縫合と顎関節を理解する。					
7	まとめ 1.	理解度に合わせて補足を行う。					
8	呼吸器系 構造	①呼吸器系を構成する器官を理解する。 ②気管と気管支、肺の構造を理解する。					
9	体幹の骨格と関節 呼吸に関わる筋	①脊柱の外観及び椎骨基本的形態及び特徴を理解する。 ②胸部の外観及び胸部を構成する骨を理解する。 ③脊柱、脊柱と頭蓋及び胸部の連結を理解する。					
10	循環器系 心臓・血管	①血管の構造と役割を理解する。 ②心臓の位置・構造・役割を理解する。					
11	循環器系 動脈系	①大循環と小循環の違いと役割を理解する。 ②動脈系の経路を理解する。＊代表的な動脈を覚える。					
12	循環器系 静脈系・リンパ系	①静脈系（門脈系を含む）の構造と機能を理解する。 ②リンパ系の構造と機能を理解する。					
13	上肢の骨格と関節	①上肢帯及び自由上肢骨に含まれる骨を理解する。 ②上肢帯及び自由上肢骨、手の連結を理解する。					
14	下肢の骨格と関節	①下肢帯及び骨盤、自由下肢骨を理解する。 ②下肢帯及び骨盤、自由下肢骨の連結を理解する。					
15	まとめ 2.	理解度に合わせて補足を行う。					
教科書	書籍名		著者		出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学「第6版」		野村 巖 編		医学書院		
参考図書等	人体解剖アトラス		佐藤 達夫 訳		南江堂		
	消して忘れない解剖学要点整理ノート		井上 馨 編		羊土社		
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験			
履修上の注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。						

講義科目	解剖学Ⅱ				授業時間数	30
担当講師	岡部 貴文				単位数	2
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	正常な人体の神経系・感覚器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系を学び、形態および構造を理解する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	泌尿器系 構造	①泌尿器系を構成する器官を理解する。 ②腎臓・尿管・膀胱の構造を理解する。				
2	泌尿器系 排尿反射と排尿	①尿の貯蔵と排尿 ②排尿反射を理解する。				
3	生殖器・内分泌系	①生殖器系、内分泌系の構造を理解する。				
4	神経系総論	①神経系の区分を理解する。④神経系の発生を理解する。 ②神経系の構造を理解する。 ③髄膜と脳室を理解する。				
5	末梢神経系①	①脊髄と脊髄神経の関係を理解する。 ②神経叢と神経の名称及び走行を理解する。				
6	末梢神経系②	①脳神経の機能と経路を理解する。 ②自律神経の機能と経路を理解する。				
7	まとめ1.	理解度に合わせて補足を行う。				
8	中枢神経系①	①大脳皮質の構造と機能局在を理解する。 ②大脳基底核の構造と役割を理解する。 ③間脳の構造と役割を理解する。				
9	中枢神経系②	①脳幹の外形を理解する。 ②脳幹の断面（神経路と脳神経核）を理解する。				
10	中枢神経系③	①小脳の外形と区分を理解する。 ②小脳脚の位置と役割を理解する。 ③小脳の内部構造について理解する。				
11	中枢神経系④	①脊髄の外形を理解する。 ②脊髄の断面（灰白質と白質の違い）を理解する。 ③脊髄の神経路を理解する。				
12	中枢神経系⑤	①上行性伝導路（体性感覚、視覚、聴覚）を理解する。 ②下行性伝導路（錐体路、錐体外路）を理解する。				
13	感覚器系 視覚器の構造と役割	①視覚の構造と役割を理解する。				
14	感覚器系 外皮、平衡聴覚器の構造と役割	①皮膚構造を理解する。 ②聴覚の構造と役割を理解する。				
15	まとめ2.	理解度に合わせて補足を行う。				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学「第6版」		野村 巖 編		医学書院	
参考 図書等	Qシリーズ 新解剖学		加藤 征 監修		日本医事新法社	
	図解解剖学辞典		山田 英知 監修		医学書院	
	人体解剖カラーアトラス		佐藤 達夫 訳		南江堂	
	消っして忘れない解剖学要点整理ノート		井上 馨 編		羊土社	
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	人間の運動機能を理解する基盤となる重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。					

講義科目	生理学 I		
担当講師	笛田 由紀子		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的（植物）機能を理解する。		
No	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	生理学の基礎 I 細胞膜	細胞の構造を学び、核と細胞小器官の役割および細胞膜の構造と機能を理解する。	
2	生理学の基礎 II 物質輸送	輸送体、受容体、能動輸送、サイトシスについて学び、細胞膜を介した生体分子の動きを理解する。	
3	生理学の基礎 III エネルギー生成	細胞内の解糖系とミトコンドリアにおける酸化的リン酸化を学び、細胞がどのようにしてATPを生成しているのかを理解する。	
4	消化と吸収 I	摂取した食物が咀嚼と嚥下、蠕動運動によって体内に運ばれるメカニズムと、消化に係わる胃、膵臓および胆嚢の消化液の役割を理解する。また、消化に関わる神経系について理解する。	
5	消化と吸収 II	小腸の吸収性上皮細胞における膜消化を学ぶとともに、排便のメカニズムを理解する。	
6	消化と吸収 III	三大栄養素である糖質・蛋白質・脂質の消化と吸収について学び、どのような消化管ホルモンが働くのかを理解する。	
7	まとめ1.	6回までの講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
8	呼吸と血液 I	内呼吸と外呼吸の違いを学び、呼吸運動のメカニズムとスパイログラムを理解する。	
9	呼吸と血液 II	血液ガスの交換と運搬機構、および酸素解離曲線の意味を理解する。さらに、呼吸中枢による調節機構を理解する。	
10	呼吸と血液 III	血液の成分と血球の機能や血液凝固について理解する。さらに血液型とは何かを理解する。	
11	血液の循環 I	固有心筋・特殊心筋の役割を学び、刺激伝導系について理解する。	
12	血液の循環 II	心電図の波形を理解する。また、心周期や前負荷・後負荷について理解する。	
13	血液の循環 III	収縮期血圧と拡張期血圧について学習し、血圧の調節機構である減圧（昇圧）反射やレニン-アンギオテンシン系を理解する。	
14	血液の循環 IV	微小循環と胎児循環、リンパ系の役割を理解して浮腫が生じる機構を学ぶ。	
15	まとめ2.	8-14回の講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。	
教科書	書籍名	著者	出版社
	系統看護学講座 解剖生理学	坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀 著	医学書院
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ 生理学 人体の構造と機能	片野 由美	医学芸術社
	カラー図解 よくわかる生理学の基礎	佐久間 康夫	メディカル・サイエンス
	消っして忘れない生理学要点整理ノート	佐々木 誠一 編集	羊土社
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。		

講義科目	生理学Ⅱ			
担当講師	笛田 由紀子		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数	2
教育目標	ヒトの動物性機能を理解する。			
No	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	体液の調節と尿Ⅰ	尿の生成について腎臓の機能単位であるネフロン機能を通して学び、濾過と再吸収の機能を理解する。パソプレシンやアルドステロンによる調節機能とクリアランスの生理学的意義を理解する		
2	体液の調節と尿Ⅱ	水の出納バランスによる体液調整について、脱水、排尿の機能をとおして理解する。体液の電解質バランスの異常と病態について理解する。		
3	神経系の基礎	ニューロンの形態と機能を学び、静止電位と活動電位の生成メカニズムを理解する。軸索伝導とシナプス伝達の特徴を理解し、シナプス電位であるEPSPとIPSPの違いを理解する。		
4	内臓機能の調節Ⅰ	自律神経系が交感神経系と副交感神経によって構成され、生体の機能のバランスが調整されていることを理解する。		
5	内臓機能の調節Ⅱ	内分泌・傍分泌とは何かを理解し、それら分泌に関与する受容体やセカンドメッセンジャーについて学び、理解する。		
6	内臓機能の調節Ⅲ	下垂体・甲状腺・膵臓・副腎における内分泌機能を理解する。神経内分泌とは何かを理解する。		
7	まとめ1.	6回までの講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。		
8	情報の受容と処理Ⅰ	中枢神経系が脳と脊髄によって構成されることを学び、特に脳各部位の機能を理解する。		
9	情報の受容と処理Ⅱ	脳神経と脊髄神経について学び、運動（遠心性）の伝導路を理解する。		
10	情報の受容と処理Ⅲ	感覚（求心性）の伝導路を理解する。疼痛の機序について理解する。		
11	情報の受容と処理Ⅳ	脳から派生する電位である脳波の分類と、睡眠の関係を理解する。記憶に関与する部位や情動の発現に関与する脳部位を理解する。		
12	情報の受容と処理Ⅴ	視覚に関与する網膜の杆体と錐体の機能を理解する。眼球運動について理解する。		
13	情報の受容と処理Ⅵ	聴覚、平衡覚、味覚および嗅覚のメカニズムについてそれぞれ理解する。		
14	外部環境からの防御	非特異的防衛機構および特異的防衛機構を学び、体の免疫機構について理解する。		
15	まとめ2.	8・14回の講義内容について、復習をとおして知識の確認をし、理解を深める。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	系統看護学講座 解剖生理学		坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀 著	医学書院
参考図書等	図解ワンポイントシリーズ 生理学 人体の構造と機能		片野 由美	医学芸術社
	カラー図解 よくわかる生理学の基礎		佐久間 康夫	メディカル・サイエンス
	消して忘れない生理学要点整理ノート		佐々木 誠一 編集	羊土社
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	疾病の成り立ちを理解するために重要な基礎知識であり国家試験出題数も多い科目である。毎回の授業内容をしっかり理解するため、積極的に質問をしたり学生相互で教え合うなど主体的学習に努めること。			

講義科目	運動学 I					
担当講師	奥之山 峻 古井 雅也			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	4
教育目標	身体の構造（骨・関節・靭帯・筋・神経）と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。 上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸部の構造と運動との関わり合いを理解する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）	No	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	運動学総論 身体運動の面と軸	総論 身体運動の面と軸を理解する	16	筋・筋と神経まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
2	身体運動の面と軸 まとめ	運動方向を理解する 学習の習熟度に合わせ補足	17	上肢帯と肩関節の構造 と運動①	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する 靭帯の走行と運動制限を理解する	
3	骨の分類と構成	骨の基本構造・骨の成長について理解する。 骨の分類について理解する。	18	上肢帯と肩関節の構造 と運動②	肩に関する各関節の構造と関節運動を理解する	
4	骨の連結と分類	骨の連結種類を理解できる	19	上肢帯と肩関節の構造 と運動③	肩関節安定化機構(関節唇・回旋腱板)を理解する	
5	滑膜関節の形状と分類	滑膜関節の基本構造（形状と分類・軸・代表的な関節の観察）を理解する	20	上肢帯と肩関節の構造 と運動④	肩甲上腕リズム 上腕二頭筋筋長頭と肩関節を理解する	
6	骨・関節まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	21	肘関節と前腕の構造と 運動①	肘関節を構成する骨と関節(腕尺関節・腕橈関節・上橈尺関節・下橈尺関節)を理解する	
7	筋の構造と分類①	筋の分類を理解する 骨格筋の基本構造を理解する	22	肘関節と前腕の構造と 運動②	生理的外反肘・ヒューター線（三角）を理解する 前腕骨間膜について理解する	
8	筋の構造と分類②	骨格筋の種類別特性を理解する 筋収縮のメカニズムを理解する	23	肘関節と前腕の構造と 運動③	上腕二頭筋、腕橈骨筋、上腕三頭筋3つのでこの関係性について理解する	
9	筋収縮について①	筋収縮のメカニズムを理解する 筋収縮の分類を理解する	24	手関節と手の構造と運 動①	手関節を構成する骨と手の骨を理解する 手関節の構造と関節運動を理解する 手のアーチを理解する	
10	筋収縮について②	筋張力を理解する	25	手関節と手の構造と運 動②	手根中手関節から指骨間関節を構成する骨と手の骨及び関節運動の理解 屈筋腱と伸筋腱を理解する	
11	神経系の構造と機能①	神経の基本構造を理解する 脊髄の基本構造を理解する	26	手関節と手の構造と運 動③	手内在筋と外在筋を理解する 手の機能的肢位の構造を理解する 手の変形の種類を知る	
12	神経系の構造と機能②	神経線維の分類を理解する 錐体路を理解する	27	各関節と運動まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
13	筋と神経①	筋紡錘・伸張反射を理解する	28	脊柱・体幹の構造と運 動①	脊柱の基本構造と運動について理解する 椎間円板の構造と機能について理解する 脊椎に関わる靭帯の機能を理解する	
14	筋と神経②	α - γ 連関を理解する 腱紡錘・Ib抑制を理解する	29	脊柱・体幹の構造と運 動②	頸椎の構造と運動について理解する 胸椎・胸部・腰椎の構造と運動について理解する	
15	筋と神経③	運動単位を理解する 筋の機能・形態的变化を理解する	30	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名		著者		出版社	
	基礎運動学 第7版		中村隆一他		医歯薬出版	
標準理学療法学・作業療法学 解剖学		野村 巖 編		医学書院		
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系		坂井 建雄・松村 譲児 監訳		医学書院	
授業方法	講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。					

講義科目	運動学Ⅱ					
担当講師	秋山 嘉和			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。 姿勢保持機構と正常歩行について理解する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	脊柱・体幹の構造と運動③	呼吸運動と呼吸筋について理解する 腰椎の構造と運動について理解する				
2	脊柱・体幹の構造と運動④	脊柱の動筋について理解する 表情筋・咀嚼筋について理解する				
3	下肢帯と股関節の構造と運動①	仙腸関節を構成する骨と関節を理解する 股関節を構成する骨と関節を理解する				
4	下肢帯と股関節の構造と運動②	靭帯の走行と運動制限を理解する				
5	下肢帯と股関節の構造と運動③	股関節の動筋について理解する				
6	膝関節の構造と運動①	膝関節を構成する骨と関節を理解する 半月板の構造と機能について理解する				
7	膝関節の構造と運動②	靭帯の走行と運動制限を理解する 関節運動(転がり・滑り),終末強制回旋運動について理解する 膝関節の動筋について理解する				
8	足関節の構造と運動③	足関節を構成する骨と足の骨を理解する 足関節の構造と関節運動を理解する				
9	足関節の構造と運動④	靭帯の走行と運動制限を理解する 足関節の動筋について理解する				
10	姿勢	重心と支持基底面,安定性に影響する要因について理解する 安静立位姿勢における重心線について理解する 抗重力筋とその働きについて理解する				
11	活動に関わる身体機能と構造①	歩行周期と基本的用語について理解する 正常歩行における重心移動について理解する				
12	活動に関わる身体機能と構造②	正常歩行における床反力について理解する				
13	活動に関わる身体機能と構造③	正常歩行における下肢関節の角度変化と筋活動について理解する				
14	活動に関わる身体機能と構造④	効率の良い歩行を生み出すための要素について理解する 正常歩行における上肢帯の運動とその役割について理解する				
15	振り返り	学習の習熟度に合わせ補足				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	基礎運動学 第7版		中村隆一他		医歯薬出版	
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		野村 巖 編		医学書院	
参考図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系		坂井 建雄・松村 譲児 監訳		医学書院	
授業方法	講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験。		
履修上の注意	人間の運動機能を理解する重要な科目で国家試験出題数も多い。PT・OTに必須な知識であり、丸暗記ではなく自らの運動と関わらせながら興味を持ち、且つ繰り返し学習するよう心がけて下さい。					

講義科目	運動学演習 I				授業時間数	30
担当講師	宮崎 祐二				単位数	2
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	概論(オリエンテーション) 筋の機能と形態的变化	動筋・拮抗筋・固定筋・安定筋について理解する。 筋の肥大や萎縮等の形態的变化について理解する。				
2	上肢上部総論	肩甲骨・上腕骨の骨指標を理解する。				
3	肩甲骨周囲の筋①	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
4	肩甲骨周囲の筋②	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
5	肩甲骨周囲の筋③	肩甲骨周囲の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
6	肩関節の筋①	肩関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
7	肩関節と肘関節の筋①	肩関節・肘関節の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
8	上肢下部総論	橈骨・尺骨・手根骨の骨指標を理解する。				
9	前腕の屈筋①	前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
10	前腕の屈筋②	前腕の屈筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
11	前腕の伸筋①	前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
12	前腕の伸筋②	前腕の伸筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する 必要な骨指標を確認する。				
13	手内在筋・手外在筋	手内在筋・手外在筋について、作用を理解する。 必要な骨指標を確認する。				
14	上肢筋の支配神経	神経の走行とその支配筋について理解する。				
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 基礎運動学		野村 巖 編 中村 隆一		医学書院 医歯薬出版	
参考 図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系		坂井 建雄・村松 譲児		医学書院	
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）		青木 隆明		メジカルビュー社	
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）		青木 隆明		メジカルビュー社	
授業方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験（70%） 演習時の課題（30%）		
履修上の 注意	演習を中心に実施していくため、実技着を着用すること。					

講義科目	運動学演習 II					
担当講師	宮崎 祐二			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	下肢上部総論	骨盤・大腿骨・脛骨腓骨上部の骨指標を理解する。				
2	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋①	股関節の前面・後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
3	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋②	股関節の外転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
4	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋③	股関節の外旋筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
5	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋④	股関節の内転筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
6	骨盤・大腿骨・下腿骨上部の筋⑤	大腿前面及び後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
7	下肢下部総論	下腿骨下部・足部の骨指標を理解する。				
8	下腿骨下部・足部の筋①	下腿前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
9	下腿骨下部・足部の筋②	下腿後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
10	下腿骨下部・足部の筋③	下腿後面及び外側の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。必要な骨指標を確認する。				
11	下肢筋の支配神経	神経の走行とその支配筋について理解する。				
12	下肢筋の整理	下肢筋の位置関係と各筋の作用、支配神経について整理する。				
13	頭部及び体幹総論	頭頸部の骨指標を理解する。 頭頸部前面の筋の走行と作用を理解する。				
14	体幹前面の筋	体幹前面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。				
15	体幹後面の筋	体幹後面の筋について、起始・停止、走行を覚え、作用を理解する。				
教科書	書籍名	著者		出版社		
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 基礎運動学	野村 巖 編		医学書院		
参考 図書等	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系	中村 隆一		医歯薬出版		
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）	坂井 建雄・村松 譲児		医学書院		
	運動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）	青木 隆明		メジカルビュー社		
授業 方法	講義・演習 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験（70%） 演習時の課題（30%）			
履修上の 注意	演習を中心に実施していくため、実習着を着用すること。					

講義科目	人間発達学					
担当講師	原田 薫				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	人間発達総論	①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③発達の検査の目的、方法、種類を理解する。				
2	姿勢反射・反応	①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現・消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。				
3	胎児期の発達	①受精に関する過程を理解する。 ②胎児の発達過程を理解する。 ③胎児期に出現する反射の確認を行う。				
4	新生児期の発達	①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害（早産・低出生体重児）を理解する。				
5	乳幼児期の発達	①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害（脳性麻痺）の概要を理解する。				
6	幼児期の発達	①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害）の概要を理解する。				
7	上肢機能の発達	①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。				
8	ADLの発達1（食事・排泄・更衣）	①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。				
9	ADLの発達2（遊び）	①遊びの発達を理解する。				
10	感覚・知覚・認知の発達	①感覚・知覚・認知の発達を理解する。				
11	言語・社会性の発達	①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。				
12	学童期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。				
13	青年期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。 ③人間発達における性差について理解する。				
14	成人・老年期の発達	①青年期の特徴を理解する。 ②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。④人間発達における性差について理解する。				
15	各期の発達のまとめ	胎児期から老年期まで生涯の発達についてまとめ、理解度に応じて補足を行う				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	イラストでわかる人間発達学		上杉 雅之 監修		医歯薬出版株式会社	
参考図書等	リハビリテーションのための人間発達学		大城 昌平 編		メディカルプレス	
	生涯人間発達論		服部 祥子		医学書院	
	標準理学療法学・作業療法学 人間発達学		岩崎 清隆		医学書院	
授業方法	講義および演習方式で授業を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。 また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評価学・治療学の基礎となる科目である。					

講義科目	リハビリテーション基礎医学 I				
担当講師	井上 祥教			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数
教育目標	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について理解することを目標とする。				
No	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	オリエンテーション・総論	リハビリテーションが必要な疾患、加齢の影響を知り、栄養及び運動の必要性を理解する。また、運動に功罪があることを理解する。			
2	運動と筋	筋の収縮とATP産生について理解する。 ATP産生に必要な栄養素及び酸素について理解する。			
3	栄養学の基礎	3大栄養素の消化と吸収及びそれらの役割について理解する。			
4	運動と呼吸①	呼吸のメカニズムの基礎を理解する			
5	運動と呼吸②	運動時の呼吸変化およびそのメカニズムについて理解する			
6	運動と循環①	循環器のメカニズムの基礎を理解する			
7	運動と循環②	運動時の循環器の変化及びそのメカニズムについて理解する			
8	運動と神経	運動に必要な神経系のメカニズムの基礎を理解する			
9	運動とホルモン	運動に必要なホルモンの代表的なものを理解する			
10	運動と体温調節	体温の概要及び調節のメカニズムについて理解する			
11	体力の測定	体力の中でも特に、持久力の指標について理解する			
12	運動量の測定	運動量を測定する指標について理解し、計算ができるようになる			
13	加齢と廃用症候群、生活習慣等の影響と予防	加齢および廃用症候群、生活習慣等が体に及ぼす影響とその予防の基礎を理解する			
14	栄養療法の活用	主な病態に対する栄養療法を理解する			
15	運動時の生体反応とリスク管理、救急救命	運動時のバイタルサインの変化とそれに基づくリスク管理及び対処方法(救急救命)を理解する			
教科書	書籍名		著者		出版社
	入門運動生理学		勝田 茂		杏林書院
参考図書等	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎		栢下淳 若林秀隆		医歯薬出版
	生化学・栄養学		内山靖 編		医歯薬出版
	生体のしくみ標準テキスト（電子書籍）		高松 研		医学映像教育センター
授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	リハビリテーションを実施するうえで基礎となる科目です。積極的に講義に参加してください。				

講義科目	リハビリテーション基礎医学Ⅱ			
担当講師	新小文字病院 医療技術部		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数	2
教育目標	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。			
No	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	画像診断総論	レントゲン、CT及びMRI等画像の原理について理解する。		
2	四肢の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、四肢の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。		
3	四肢の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、四肢の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。		
4	胸腹部の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、胸腹部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。		
5	胸腹部の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、胸腹部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。		
6	頭頸部の画像①	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、頭頸部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。		
7	頭頸部の画像②	画像所見を用いて、特徴的な疾患を理解するために、頭頸部の基本的な画像読影および各部位の位置関係を理解する。		
8	画像診断の活用方法	実際の症例を用いて画像診断の活用方法を体験する。		
9	薬物療法総論	リハビリテーションに関連する薬物療法、薬理作用と作用機序について理解する。		
10	薬物の体内運命	薬物の吸収・分布・代謝・排泄、相互作用についてリハビリテーションと関連づけて理解する。		
11	血圧に關与する薬物療法	血圧（特に降圧）に關与する薬物療法について理解する。		
12	血栓に關する薬物療法	線溶系の薬物療法について理解する。		
13	疼痛に關する薬物療法	鎮痛の薬物療法について理解する。		
14	代謝に關する薬物療法	糖尿病に対する薬物療法について理解する。		
15	薬物療法の活用方法	実際の症例を用いて薬物療法の活用方法を体験する。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた		水間正登 編集	南江堂
	リハベリック 薬理学・臨床薬理学		内山靖・藤井浩美・立石雅子	医歯薬出版
参考図書等	解剖生理学		坂井建雄	医学書院
授業方法	講義形式にて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	リハビリテーションの実施時に必須の知識となります。自主的に学習を進めてください。			

講義科目	医学概論		
担当講師	理学療法学科教員		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	単位数 2
教育目標	医療倫理、健康と病気概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。		
No	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	医学の倫理	オリエンテーション、医の倫理と生命倫理 ヘルシンキ宣言、インフォームドコンセント	
2	医療の歴史	ヒポクラテスの時代から近代・現代までの医学の歴史	
3	健康・病気・医学の体系	健康とは、病気の理解と分類	
4	病気の原因	病理学とは、病気の原因	
5	病気による身体の変化①	血行障害による病変、進行性・退行性の変化、炎症	
6	病気による身体の変化②	腫瘍	
7	神経疾患について	神経疾患の病態生理	
8	運動器疾患について	運動器疾患の病態生理	
9	内部疾患について	内部疾患の病態生理	
10	病気の診断	診断の方法	
11	病気の治療	治療法の概要	
12	病気の予防	予防の原則、予防医学と衛生学、生活習慣病と一次予防	
13	医療システム	わが国の医療システムとその役割	
14	死の判定	ターミナルケア、尊厳死	
15	リハビリテーションとは	リハビリテーションの見方、考え方、その人らしさ	
教科書	書籍名		著者
	リハビリテーションビジュアルブック		稲川 利光 (編集)
参考図書等	現代医学概論		柳澤信夫
	学生のためのリハビリテーション医学概論		栢森良二
授業方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	医療人になるため、日頃から医療の倫理に関する報道や身近にある様々な疾病に興味を持つように心がけて下さい。		

講義科目	臨床心理学		
担当講師	藤 亜紀子		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	単位数 2
教育目標	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。		
No	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	臨床心理学とは	①臨床心理学の定義を理解する。 ②臨床心理学の基本構造を理解する。 ③臨床心理学の成り立ちを理解する。	
2	臨床心理学の実践活動	①臨床心理学の実践活動の過程を理解する。 ②実践活動の3技能を理解する。 ③学派の成立と現在の代表的理論モデルの中心仮説を理解する。	
3	臨床心理学の基礎理論	①ナラティブアプローチの概要を理解する。 ②エンパワーメントの概要を理解する。 ③ストレスモデルの概要を理解する。	
4	心を理解する：心理検査法①	①アセスメントの概要を理解する。 ②質問紙法と投映法の特徴と代表的な検査法を理解する。 ③認知検査の概念と代表的検査法を理解する。	
5	心を理解する：心理検査法②	①行動分析の基本的理論を理解する。 ②機能分析の方法を理解する。 ③異常心理の基準を理解する。	
6	ライフサイクルと心理問題①	①エリクソンの生涯発達理論を理解する。	
7	ライフサイクルと心理問題②	①乳幼児期から児童期の心理問題を理解する。 ②思春期の心理問題を理解する。	
8	ライフサイクルと心理問題③	①青年期の心理問題を理解する。 ②中年期の心理問題を理解する。 ③老年期の心理問題を理解する。	
9	ライフサイクルと心理問題④	①乳幼児期から老年期まで一連の心理問題を理解する。	
10	心理療法の理論モデル① 精神分析	①フロイトの「心の力学」を理解する。 ②防衛機制を理解する。 ③ユングの無意識に対する考え方を理解する。	
11	心理療法の理論モデル② 行動療法と認知行動療法	①行動療法と学習理論の考え方を理解する。 ②行動療法の技法を理解する。 ③行動療法から現在の認知行動療法への系譜を理解する。	
12	心理療法の理論モデル③ 森田療法,内観療法,箱庭療法,夢分析	①森田療法の理論と方法を理解する。 ②内観療法、箱庭療法、夢分析の概要を理解する。	
13	心理療法の理論モデル④ 自律訓練法,系統的脱感作法,集団療法	①自律訓練法の理論と効果を理解する。 ②系統的脱感作法の概要を理解する。 ③集団療法の定義とグループ・ダイナミックスを理解する。	
14	心理療法の実際 クライアントの心理反応とセラピストの態度	①心理療法の実際の流れを理解する。 ②反動形成、転移などの心理反応を理解する。 ③セラピストの基本的態度を理解する。	
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足	
教科書	書籍名	著者	出版社
	面白いほど良くわかる 臨床心理学	下山 晴彦 著	西東社
参考 図書等	よくわかる臨床心理学	下山 晴彦 著	ミネルヴァ書房
	公認心理師必携テキスト	福島 哲夫	学研メディカル秀潤社
	リハビリテーションのための臨床心理学	牧瀬 英幹	南江堂
授業 方法	教科書に沿って講義および演習を行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験
履修上の 注意	国家試験でも重要な科目であると共に、対人援助職にとって重要な知識であるので興味をもって授業に臨んで下さい。		

講義科目	精神医学					
担当講師	二階堂 晴江			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり	単位数	2
教育目標	各疾患について疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	精神医学とは何か	①精神医学の定義及び概念を理解する。 ②精神障害の成因を理解する。 ③精神障害の分類を理解する。				
2	精神障害の症状	①精神機能の種類と精神症状を理解する。 ②精神症状の特徴を理解する。				
3	精神科面接法と評価	①精神障害の診断や評価の基本概念を理解する。 ②検査法や評価尺度を学ぶ。 ③PT・OTにとって面接や評価における重要な視点を学ぶ				
4	脳器質性精神障害	①器質性精神障害の概念を理解する。 ②代表的な認知症の症状、生活障害を理解する。 ③特徴的な脳器質性・症候性精神障害を学ぶ。				
5	アルコール関連精神障害	①依存症による精神障害の概念を理解する。 ②アルコール依存症の特性を理解する。 ③アルコール依存症の後遺障害、生活障害を学ぶ。				
6	薬物精神作用物質依存 てんかん	①依存物質・薬物の種類や特性を理解する。 ②精神依存・身体依存・耐性と依存物質の関係を学ぶ。 ③てんかんの発生機序、分類、症状などの特性を学ぶ。				
7	統合失調症及びその関連疾患	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。				
8	統合失調症及びその関連疾患	①統合失調症の病期、回復過程に応じた治療・リハビリテーションを学ぶ。 ②特徴的症狀の治療、経過を学ぶ。 ③生活支援、社会的予後を学ぶ。				
9	気分障害	①気分障害の概念、捉え方を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。				
10	気分障害	①躁うつ病の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状、障害、治療方針、回復過程、経過、予後を学ぶ。 ③気分障害の生活への影響を学ぶ。				
11	神経症性障害	①神経症性障害の概念、捉え方を学ぶ。 ②不安、恐怖、強迫症とは何かを学ぶ。 ③ストレス関連障害について学ぶ。				
12	神経症性障害	①摂食障害、身体表現性障害、心身症について学ぶ。 ②人格障害の概念、捉え方を理解する。 ③人格障害の特性を理解する。				
13	精神発達遅滞 心理的発達障害	①精神遅滞、ダウン症について理解する。 ②広汎性発達障害の特性を理解する。 ③行動障害について理解する。				
14	精神障害の治療とリハビリテーション	①精神障害への医学的・治療的捉え方、リハビリテーションを理解する。 ②生活支援、社会資源、法的背景などを学ぶ。 ③精神医学を総括的に理解する。				
15	まとめ	学習の習熟度に合わせ補足				
教科書	書籍名		著者	出版社		
	PT・OTビジュアルテキスト 精神医学		先崎 章 監修	羊土社		
参考 図書等	標準理学療法学・作業療法学 精神医学		上野 武治 編	医学書院		
	学生のための精神医学		太田 保之	医歯薬出版		
授業 方法	教科書、スライド、DVDを用い講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の 注意	各精神障害について、原因、発生機序、症状、検査、診断、治療、経過、予後、疾患特性などが結びつき、疾患単位で障害を理解できるような学習が必要。そのため予習復習など主体的に学習を行うことが大切である。					

講義科目	リハビリテーションと理学療法 I				授業時間数	30
担当講師	磯邊 恵理子				単位数	2
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院・在宅分野において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法士という専門職の役割を認識し、「あらゆる人々が健康で自立した生活の実現に貢献する」ことを使命とするプロフェッショナルリズムとしての行動素地を身に付けることが出来る。その上で自らの目標・課題が明確となり今後の指標とすることが出来る。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	学修の在り方の理解	講義、教科書、参考文献から重要事項や課題点・目標などを設定できる。得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを表現できる。				
2	理学療法士の定義	理学療法士の役割について知る				
3	医療倫理と理学療法倫理	倫理の原則について理解し、遵守して実践できる 医療及び理学療法の倫理に関する規範・原則を説明できる				
4	理学療法士の活動分野 1	理学療法士の活動分野について理解する				
5	理学療法士の活動分野 2	理学療法士の活動分野について理解する				
6	理学療法士の活動実践 1	急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。				
7	理学療法士の活動実践 2	急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。				
8	理学療法士の活動実践 3	急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。				
9	理学療法士の活動実践 4	急性期・回復期・維持期・予防・ウィメンズ、メンズヘルスなどで活動しているセラピストから理学療法実践についての話を聞き活動内容について理解する。				
10	対象者の理解	インフォームドコンセントの必要性について理解する 障害受容過程について理解する				
11	グループワーク・キャリアデザイン	自らのキャリアデザインについて考える①				
12	グループワーク・キャリアデザイン	自らのキャリアデザインについて考える②				
13	グループワーク・キャリアデザイン	自らのキャリアデザインについて発表する				
14	理学療法教育・臨床実習	理学療法教育の歴史について理解できる 臨床実習の目的について理解できる				
15	理学療法士に必要な能力	臨床現場で求められる能力について理解し、自らの課題について考えることができる				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法概論テキスト		細田 多穂 監修		南江堂	
参考図書等	理学療法学テキスト I 理学療法学概論 第4版		千住 秀明(監) 田原弘幸・高橋精		神陵文庫	
	リハビリテーション職種のキャリア・デザイン		大町 かおり 高木 綾一		シービーアール	
	リハビリテーションビジュアルブック		編集：稲川利光		学研	
授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	提出課題		
履修上の注意	リハビリテーション専門職となるための入門授業である。 実際のリハビリテーションの在り方を学び、将来の自己イメージを高めて下さい。					

講義科目	リハビリテーションと理学療法Ⅱ					
担当講師	坪田 和英			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院・通所介護・訪問看護において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	私たちが働く領域は制度に基づく。その社会保障制度を理解したうえで、チームにおけるリハビリテーション職種の役割を認識する。また、対象者理解に必要な視点を身に付ける。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	社会保障制度	保健医療福祉施策の動向について理解することができる				
2	医療保険制度	医療保険制度について理解することが出来る				
3	介護保険制度	介護保険制度について理解することが出来る				
4	障害者総合支援法	障害者総合支援法について知る 就労支援及び自立支援について知る				
5	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概要について知る				
6	理学療法士・作業療法士とは	理学療法士及び作業療法士について理解する。 法令に基づく理学療法士の在り方について理解する。				
7	関連職種の理解と関わり方1	リハビリテーション医療とは何か理解する。 また関連職種の役割を知る。 健康と生活機能の評価				
8	関連職種の理解と関わり方2	リハビリテーション医療とは何か理解する。 また関連職種の役割を知る。 健康と生活機能の評価				
9	障害のとらえ方1	国際生活機能分類				
10	障害のとらえ方2	事例検討				
11	予防医療	予防の概念について理解する 予防理学療法とはどのような内容か説明できる				
12	コンプライアンス・個人情報管理について	コンプライアンスとは何かについて説明できる。 個人情報とは何かについて理解し、漏洩防止策について説明できる。				
13	医療事故	医療事故、院内感染について説明できる。 医療事故が発生した場合の対応について説明できる。				
14	研究によるエビデンス	研究の意義について説明できる エビデンスレベルについて説明できる				
15	救急救命（BLS）	救急救命法について経験する				
教科書	書籍名	著者		出版社		
	理学療法概論テキスト	細田 多徳 監修		南江堂		
参考図書等	理学療法学テキストⅠ 理学療法学概論 第4版	千住 秀明(監) 田原弘幸・高橋精一郎(編)		神陵文庫		
	理学療法概論 第1版	庄本 康治		羊土社		
	リハビリテーションビジュアルブック	編集：稲川利光		学研		
授業方法	講義及びグループワークにて行う 必要に応じて遠隔授業を実施する	成績評価方法	定期試験			
履修上の注意	理学療法士は制度の下で働きます。働くために必要な制度や視点を身近な事例から考えられるように想像力を深めてください。					

Ⅲ. 理学療法学科専門分野

講義科目	基礎理学療法学 I					
担当講師	井上 祥教				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療学科 1年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	理学療法の基礎を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。					
No	講義計画		行動目標 (学習目標)			
1	オリエンテーション		授業の進め方、レポート提出、グループワークの約束について理解する。			
2	基本姿勢と基本動作の概要		基本姿勢・基本動作について関連付けて理解する。			
3	基本姿勢		基本姿勢について、名称、肢位、支持基底面の広さ、姿勢の特徴について理解する。			
4	基本動作		基本動作について、動作を相分けして、肢位と運動方向、支持基底面の広さと重心の位置、動作の特徴について理解する。			
5	高齢者体験①		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (高齢者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)			
6	高齢者体験②		【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (高齢者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)			
7	高齢者体験③		体験した内容の感想を発表し、どのようなリハビリが適応となるか考える。			
8	動作観察①		動作困難な原因を仮説立案する。			
9	動作観察②		動作困難な原因を仮説立案する。			
10	筋と関節運動		筋の起始、停止、関節運動について理解する。			
11	ストレッチ		Ib抑制を用いたストレッチを体験し評価する。			
12	筋力増強訓練①		上肢の筋力増強訓練についてグループ学習し、バイタル測定を実施する。			
13	筋力増強訓練②		下肢の筋力増強訓練についてグループ学習し、バイタル測定を実施する。			
14	持久力増強訓練		Karvonen法と運動強度について説明し、体験する。 運動前後の生体反応について理解し、バイタル測定を実施する。			
15	筋力、持久力増強訓練のまとめ		筋力・持久力増強運動について理解する。			
教科書	書籍名			著者		出版社
参考図書等	必要に応じて授業中に提示する。					
授業方法	講義、グループワーク、演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	レポート提出状況(20%×1) 定期試験(80%)にて評価する。		
履修上の注意	グループでの活動が多いため、協調性を意識して積極的に行動すること。					

講義科目	基礎理学療法学Ⅱ				
担当講師	原田 薫			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数
教育目標	理学療法の基礎を築くために予防医学と現代医療を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。				
No	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	オリエンテーション 理学療法の対象と関連科目	授業の進め方、グループワークの約束について説明する。 理学療法の対象とその関連科目について理解する。			
2	感染症とその対策①	感染症の概要と標準的予防策(standard precaution)について理解する。			
3	感染症とその対策②	【演習】 手洗い、うがいを実践的に学ぶ。			
4	加齢変化と廃用症候群	加齢に伴う身体変化と廃用症候群について理解する。			
5	障がい者体験①	【演習】 障がい者にとって障壁となる動作、機能、環境を想定し、それらの対策案を話し合う。			
6	障がい者体験②	【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (障がい者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)			
7	障がい者体験③	【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。 (障がい者の歩行・入浴動作・階段昇降動作・起き上がり動作など)			
8	障がい者体験④	障がい者体験についてグループ発表を行う。			
9	障がい者体験⑤	障がい者体験についてグループ発表を行う。(レポート：1回目)			
10	車椅子体験①	車椅子の名称や種類について理解する。 車椅子利用者にとって、障壁となる道路や施設の特徴についての対策案を話し合う。			
11	車椅子体験②	【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。車椅子体験			
12	車椅子体験③	【演習】 自分たちで想定した動作を実際に体験し、記録する。車椅子体験			
13	車椅子体験④	車椅子体験についてグループ発表を行う。(レポート：2回目)			
14	チーム医療と包括的リハビリテーション①	チーム医療に必要な資質面、認知面、精神運動面を考察し、検討する。			
15	チーム医療と包括的リハビリテーション②	チーム医療と包括的リハビリテーションについて調査し、具体例を検討する。			
教科書	書籍名		著者		出版社
参考図書等	老年学 第5版 標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野		奈良 勲		医学書院
授業方法	講義、グループワーク、演習 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	レポート提出状況(10%×2) 定期試験(80%)にて評価する。	
履修上の注意	グループでの活動が多いため、協調性を意識して積極的に行動すること。				

講義科目	臨床運動学演習 I				
担当講師	川崎 亮佑			授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数
教育目標	理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。測定機器を用いて、客観的データに基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解を深める。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。				
No	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	臨床運動学概論	①臨床運動学の意義・目的・範囲を理解する。 ②動作分析は運動学と運動力学からなることを理解する。			
2	動作分析の基礎知識①	①運動力学の基本を説明できる (重力・重心・ベクトル)			
3	動作分析の基礎知識②	①運動力学の基本を説明できる (物理学の法則、モーメント)			
4	姿勢分析①	①動作分析の手順が説明できる。 ②正常な姿勢を理解する。分析の方法を計画する。			
5	姿勢分析②	①観察した内容に対するの考察を記載する。 ②姿勢分析について説明する。(発表)			
6	立ち上がり動作分析①	①高い椅子と低い椅子で比較する。 ②速い立ち上がりとし遅い立ち上りを比較する。以上2点を中心に立ち上りを分析する。			
7	立ち上がり動作分析②	①なぜ低い椅子で筋力を必要とするのか説明できる。 ②なぜ速い立ち上がりのほうが筋力を必要とするのか説明できる。			
8	寝返り・起き上がりの動作分析①	①寝返り・起き上がり動作を理解する。			
9	寝返り・起き上がりの動作分析②	①観察した内容に対するの考察を記載する。			
10	寝返り・起き上がりの動作分析③	①観察した内容に対するの考察を記載する。 ②観察した内容に対するの分析内容について説明する。(発表)			
11	歩行分析①	①歩行について理解する (相分け、関節の動き)			
12	歩行分析②	①歩行について理解する (床反力、筋活動) ②歩行分析方法を計画する。			
13	歩行分析③	①歩行観察した内容に対するの考察を記載する。			
14	歩行分析④	①歩行分析内容について説明する。(発表)			
15	姿勢・動作分析まとめ	①筋電図や三次元動作解析装置、床反力計などを用いて動作を考える。 ②歩行支援ロボットの臨床活用について理解する。			
教科書	書籍名		著者		出版社
	動作分析臨床活用講座		石井慎一郎		メジカルビュー社
	観察による歩行分析		月城慶一,他 (訳)		医学書院
参考図書等					
授業方法	講義と実技 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	臨床において必要な知識・技術であるため、しっかりと復習して下さい。				

講義科目	基礎評価学演習 I					
担当講師	鈴木 彩 川上 留理子 伊織 信一			授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標	理学療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。					
No	講義計画	行動目標 (学習目標)		No	講義計画	行動目標 (学習目標)
1	総論	①オリエンテーション ②理学療法評価とは		16	関節可動域測定 ⑤	①前腕 ②手指の関節
2	医療面接	①コミュニケーションとは ②医療面接とは		17	関節可動域測定 ⑥	①股関節
3	バイタルサイン ①	①バイタルサインとは ②バイタルサインの臨床的意義		18	関節可動域測定 ⑦	①股関節
4	バイタルサイン ②	①血圧・脈拍測定の実際		19	関節可動域測定 ⑧	①膝関節 ②足関節
5	バイタルサイン ③	①血圧・脈拍測定の実際		20	関節可動域測定 ⑨	①足部の関節 ②肩甲帯
6	触診 ①	①ランドマークの触診		21	関節可動域測定 ⑩	①頸部 ②胸腰部 ③その他の検査法
7	触診 ②	①ランドマークの触診		22	関節可動域測定 ⑪	①まとめと復習
8	形態測定 ① (総論)	①四肢長測定の意義・目的 ②四肢長測定 (上肢)		23	関節可動域測定 ⑫	①まとめと復習
9	形態測定 ②	①四肢長測定 (下肢)		24	反射検査 ① (総論)	①反射検査の意義・目的
10	形態測定 ③	①四肢周径測定の意義・目的 ②四肢周径測定 (上肢)		25	反射検査 ②	①深部腱反射 (上肢)
11	形態測定 ④	①四肢周径測定 (下肢)		26	反射検査 ③	①深部腱反射 (下肢)
12	関節可動域測定 ① (総論)	①関節可動域測定の意義・目的		27	反射検査 ④	①表在反射
13	関節可動域測定 ②	①肩関節		28	反射検査 ⑤	①病的反射
14	関節可動域測定 ③	①肩関節		29	理学療法評価の概要	①バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、反射検査における解釈と統合
15	関節可動域測定 ④	①肘関節 ②手関節		30	まとめ	①バイタルサイン、形態測定、関節可動域測定、反射検査のまとめ
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法評価学		松澤 正、江口 勝正		金原出版株式会社	
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた		田崎義昭		南山堂	
授業方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	知識として頭で覚えるだけでなく、実際に体を動かし、繰り返し練習して技術を習得するよう心がけてください。練習の際は、他者から指摘を受けられるよう、3人以上で行うことが望ましいです。					

講義科目		基礎評価学演習Ⅱ					
担当講師		増見 伸 古井 雅也			授業時間数	60	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	整形外科領域病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		評価学演習Ⅰにて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。					
No	講義計画	行動目標 (学習目標)		No	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	総論 筋力検査の概論	評価学演習Ⅰからの流れ(評価の位置づけなど)の再確認 ①筋力の概念 ②各種筋力検査について ③粗大筋力とは		16	徒手筋力検査法 上肢①	肩関節の徒手筋力検査法演習③	
2	徒手筋力検査法 概論	①徒手筋力検査法とは ②段階付けと検査の流れについて		17	徒手筋力検査法 上肢②	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習①	
3	徒手筋力検査法 下肢①	股関節の徒手筋力検査法演習①		18	徒手筋力検査法 上肢③	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習②	
4	徒手筋力検査法 下肢②	股関節の徒手筋力検査法演習②		19	徒手筋力検査法 上肢④	肘関節、前腕、手関節の徒手筋力検査法演習③	
5	徒手筋力検査法 下肢③	股関節の徒手筋力検査法演習③		20	徒手筋力検査法 肩甲帯①	肩甲帯の徒手筋力検査法演習①	
6	徒手筋力検査法 下肢④	膝関節の徒手筋力検査法演習		21	徒手筋力検査法 肩甲帯②	肩甲帯の徒手筋力検査法演習②	
7	徒手筋力検査法 下肢⑤	足関節・足部の徒手筋力検査法演習①		22	徒手筋力検査法 その他①	手指の徒手筋力検査法演習	
8	徒手筋力検査法 下肢⑥	足関節・足部の徒手筋力検査法演習②		23	徒手筋力検査法 その他②	脳神経の徒手筋力検査法演習	
9	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹①	体幹の徒手筋力検査法演習①		24	徒手筋力検査法 上肢・肩甲帯・ 手指・脳神経	徒手筋力検査法演習まとめ 疾患をイメージした検査の実施 上肢・肩甲帯・手指	
10	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹②	体幹の徒手筋力検査法演習②		25	知覚検査①	知覚の概念 知覚検査(表在感覚検査)の方法	
11	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹③	頭頸部の徒手筋力検査法演習①		26	知覚検査②	知覚検査(表在感覚検査)の方法と演習	
12	徒手筋力検査法 頭頸部・体幹④	頭頸部の徒手筋力検査法演習②		27	知覚検査③	知覚検査(表在感覚検査)演習	
13	徒手筋力検査法 下肢・頭頸部・ 体幹	徒手筋力検査法演習まとめ 疾患をイメージした検査の実施 下肢・頭頸部・体幹		28	知覚検査④	知覚検査(深部感覚検査)の方法と演習	
14	徒手筋力検査法 上肢①	肩関節の徒手筋力検査法演習①		29	疼痛検査①	①疼痛検査の方法と演習 ②情報収集と医療面接の方法	
15	徒手筋力検査法 上肢②	肩関節の徒手筋力検査法演習②		30	まとめ	まとめ	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	新・徒手筋力検査法			Helen J.Hislop		協同医書	
理学療法評価学			松澤 正、江口 勝正		金原出版		
参考 図書等	運動のための機能解剖学的触診技術上肢・下肢			林典雄		メディカルビュー	
	ベッドサイドの神経の診かた			田崎義昭		南山堂	
	四肢と脊柱の診かた			S.Hoppenfeld(著)、野島元雄(訳)		医歯薬出版	
授業 方法	演習および講義 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
	基礎運動学 第6版 改訂				中村隆一		医歯薬出版
履修上の 注意	実技演習が主体となります。積極的に行動し、習得に努めて下さい。						

講義科目	臨床評価学演習 I					
担当講師	林 輝真 鈴木 彩			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年前期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考え、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	オリエンテーション		評価における検査測定の意義を理解し、説明できる 検査測定に必要な準備や練習方法を具体的に説明できる			
2	学生としての基本的な姿勢		実際の場面を想定し、それぞれについて適切な内容・方法が実践できる ～身だしなみ、挨拶と自己紹介、対象者との距離や話しかけ方、環境の設定・準備～			
3	検査の目的と対象者への説明		検査の目的を理解したうえで対象者に説明を行うことができる 検査時のリスク、対象者の身体の触り方、検査の肢位などの注意点を具体的に挙げ、確認することができる			
4	検査：バイタルサイン（実技練習）		実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：バイタルサイン（脈拍・血圧測定の方法、検査器具の使用法、記録の実際）			
5	検査：バイタルサイン（実技テスト）		対象者にバイタルサインの確認（脈拍・血圧測定）を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
6	検査：バイタルサイン（実技テスト）		対象者にバイタルサインの確認（脈拍・血圧測定）を行うことができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
7	検査：形態測定（実技練習）		実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：形態測定（四肢長と周径の測定方法、検査器具の取り扱いと記録の実際）			
8	検査：形態測定（実技テスト）		対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
9	検査：形態測定（実技テスト）		対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
10	検査：形態測定（実技テスト）		対象者に形態測定（四肢長と周径の測定）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
11	検査：関節可動域測定（実技練習）		実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（上肢の各関節の計測、検査器具の取り扱いと記録の実際）			
12	検査：関節可動域測定（実技テスト）		対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
13	検査：関節可動域測定（実技テスト）		対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
14	検査：関節可動域測定（実技テスト）		対象者に関節可動域測定（上肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
15	まとめ		それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法評価学		著者 松澤正・江口勝彦		金原出版	
参考図書等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版		監修 才藤栄一		金原出版株式会社	
	PTOTのための評価測定 形態計測・感覚検査・反射検査 第2版		監修 福田 修		三輪書店	
	PTOTのための評価測定 ROM測定 第2版		監修 福田 修		三輪書店	
授業方法	演習・グループワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	実技試験（60%）、提出課題（25%）、学修態度（15%）を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交えて学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とする。					

講義科目	臨床評価学演習Ⅱ				授業時間数	30
担当講師	鈴木 彩 増見 伸				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院・回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	① 対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ② 対象者の状況に合わせた検査の方法を考え、練習に取り組むことができる ③ 検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④ 基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する					
No	講義計画		行動目標（学習目標）			
1	検査：関節可動域測定（実技練習）		実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（下肢の各関節の測定、検査器具の取り扱いと記録の実際）			
2	検査：関節可動域測定（実技テスト）		対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
3	検査：関節可動域測定（実技テスト）		対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
4	検査：関節可動域測定（実技テスト）		対象者に関節可動域測定（下肢）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
5	検査：関節可動域測定（実技練習）		実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：関節可動域測定（手指・肩甲帯の各関節の測定、検査器具の取り扱いと記録の実際）			
6	検査：関節可動域測定（実技テスト）		対象者に関節可動域測定（手指・肩甲帯）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
7	検査：関節可動域測定（実技テスト）		対象者に関節可動域測定（手指・肩甲帯）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
8	検査：MMT（実技練習）		実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹の測定、記録の実際）			
9	検査：MMT（実技テスト）		対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
10	検査：MMT（実技テスト）		対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
11	検査：MMT（実技練習）		実技練習に取り組み、対象者へのオリエンテーション、検査測定、結果の記録の手順を確認できる：徒手筋力検査法（上肢・手指の測定、記録の実際）			
12	検査：MMT（実技テスト）		対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
13	検査：MMT（実技テスト）		対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
14	検査：MMT（実技テスト）		対象者に徒手筋力検査法（上肢・手指）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる			
15	まとめ		それぞれの検査におけるチェックポイントを理解し、自己の課題を明らかにすることができる 継続的に実技練習への取り組みを行うよう意識することができる			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法評価学 新・徒手筋力検査法		著者 松澤正・江口勝彦 Helen J.Hislop		金原出版 協同医書出版社	
参考図書等	臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版		監修 才藤栄一		金原出版株式会社	
	PTOTのための評価測定3 MMT 第2版		監修 伊藤俊一		三輪書店	
	PTOTのための評価測定4 MMT 第2版		監修 伊藤俊一		三輪書店	
授業方法	演習・グループワーク 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	実技試験（70%）、提出課題（15%）、受講態度（15%）を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の注意	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行うための手順と必要な基礎知識を実技を交えて学ぶ。授業時間内で検査技術の修得と実技テストの合格を目標とする。					

講義科目		運動療法学演習					
担当講師		岡部 貴文		古井 雅也			
開講年次		昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり		
教育目標		運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について、方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。					
No	講義計画	行動目標 (学習目標)		No	講義計画	行動目標 (学習目標)	
1	運動療法総論①	①運動療法の定義、歴史を理解する。②運動療法の目的、効果、リスク管理を理解する。		16	体力の改善演習②	①全身持久力改善の方法を理解する。	
2	運動療法総論②	①運動療法の必要性を理解する。②運動療法を検討するプロセスを理解する。		17	体力の改善演習③	①運動負荷試験を体験する。②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解し、体験する。	
3	関節可動域の改善①	①関節の形態と機能、関節可動域制限因子を理解する。②関節可動域運動の目的と種類を理解する。		18	体力の改善演習④	①運動負荷試験を体験する。②運動処方(頻度・強度・種類・時間)を理解できる。	
4	関節可動域運動演習②(上肢)	①肩甲帯・肩・肘・手指の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		19	協調性改善	①協調性障害を理解する。②協調性障害の運動療法を理解できる。	
5	関節可動域運動演習③(体幹)	①頸部・胸郭・胸腰部の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		20	バランスの改善	①バランス障害を理解する。②バランス障害の運動療法を理解できる。	
6	関節可動域運動演習④(下肢)	①股・膝・足の関節可動域運動の方法を理解する。②それら関節可動域運動を実施できる。		21	基本動作の獲得・改善①	①基本動作を理解する。②基本動作の観察・視点を理解する。	
7	ストレッチング理論①	①ストレッチの原理、効果、種類を理解する。		22	基本動作の獲得・改善②	①基本動作に対する運動療法の方法を理解する。	
8	ストレッチング演習②(上肢)	①肩甲帯・肩・肘・手指のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		23	歩行動作の獲得・改善①	①歩行動作を理解する。②歩行動作の観察・視点を理解する。	
9	ストレッチング演習③(体幹)	①頸部・胸郭・胸腰部のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		24	歩行動作の獲得・改善②	①歩行動作に対する運動療法の方法を理解する。	
10	ストレッチング演習④(下肢)	①股・膝・足のスタティックストレッチを実施できる。②それらのセルフストレッチングを実施できる。		25	中枢神経系障害の運動療法	①中枢神経系障害の障害を理解する。②中枢神経系障害の運動療法の概要を知る。	
11	筋力の改善理論①	①運動単位と筋線維型を理解する。②筋の肥大と萎縮を理解する。③筋力の低下、疲労を理解する。		26	骨関節系障害の運動療法	①骨関節系障害の障害を理解する。②骨関節系障害の運動療法の概要を知る。	
12	筋力の改善理論②	①筋持久力について理解する。②過負荷・特異性の原理を理解する。③筋力トレーニングの特異性を理解する。		27	内部系障害の運動療法	①内部系障害の障害を理解する。②内部系障害の運動療法の概要を知る。	
13	筋力の改善演習演習③(上肢)	①上肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。		28	高齢者と理学療法および廃用症候群に対する運動療法	①高齢者の特徴を理解する。②廃用性症候群の症状を理解する。③上記に対する運動療法の概要を知る。	
14	筋力の改善演習演習④(下肢)	①下肢の筋力改善プログラムを立案できる。②それら漸増抵抗運動を実施できる。		29	運動学習	①運動学習の影響因子を理解する。	
15	体力の改善理論①	①体力の定義を理解する。②全身持久力について理解する。③無酸素性作業域値について理解する。		30	臨床的応用	①運動学習の臨床的応用を理解する。	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	運動療法学			柳澤 健 (編集)		金原出版	
参考図書等	指定しない。						
授業方法	講義と演習【実技】 必要に応じて遠隔授業を実施する			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	理学療法(士)の基礎となる重要な科目です。予習・復習を欠かさず、講義・演習(実技)に真剣に臨みましょう。						

講義科目	物理療法学					
担当講師	秋山 嘉和			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	回復期病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	1
教育目標	種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。 症状に応じた物理療法を選択できる。					
No	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	物理療法総論・炎症	理学療法における物理療法の位置づけとその定義を理解する。 炎症および組織修復の定義、機序について理解する。 炎症および組織修復に対する物理療法の考え方を理解する。				
2	痛み・温熱療法概論	痛みの定義、機序について理解する。 痛みに対する物理療法の考え方を理解する。 温熱療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。				
3	温熱療法各論①	ホットパック、パラフィンの特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
4	温熱療法各論②	極超短波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
5	温熱療法各論③	超音波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
6	温熱療法各論④	超音波の特徴、生理的作用、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
7	温熱療法演習	ホットパック、パラフィン、極超短波、超音波を実施できる。				
8	寒冷療法概論・各論	寒冷療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 アイスパック、クリッカーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
9	光線療法概論・各論	光線療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 赤外線・レーザーの特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
10	水治療法概論・各論	水治療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 渦流浴、プール浴、交代浴の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
11	寒冷・光線・水治療法演習	アイスパック、クリッカーを実施できる。 赤外線療法を実施できる。 渦流浴を実施できる。プール浴を理解する。				
12	電気療法概論・各論①	電気刺激療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 電気刺激によるバイオフィードバック療法を理解する。				
13	電気療法各論②	治療的電気刺激療法（TES）、神経・筋電気刺激療法（NMES）、経皮的末梢神経電気刺激療法（TENS）、干渉波電気刺激療法（IFCS）、機能的電気刺激療法（FES）の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
14	牽引療法概論・各論	牽引療法の物理的特性、分類、生理的作用を理解する。 頸椎牽引、腰椎牽引の特徴、適応、禁忌、実施手順を理解する。				
15	電気刺激・牽引療法演習・まとめ	TES、NMES、TENS、IFCS、FES電気刺激療法を実施できる。 頸椎牽引、腰椎牽引を実施できる。 各々の物理療法の要点を理解する。				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	理学療法テキスト IX 物理療法		監修 千住秀明		神陵文庫	
参考図書等	理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック		木村 貞治		文光堂	
	ゴールドマスターテキスト3 物理療法学		柳澤 健		MEDICAL VIEW	
授業方法	講義と演習形式にて実施 必要に応じて遠隔授業を実施する		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	物理療法機器の取り扱い実習用の着用必須					

講義科目	臨床実習Ⅰ（病院見学実習）				
担当講師	川上 留理子				授業時間数 45
開講年次	昼間コース	理学療法学科 1年後期	実務経験	総合病院および在宅医療において理学療法士としての実務経験あり	単位数 1
教育目標	①チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。 ②代表的な疾患の症状や現象を観察する。 ③代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。				
No	講義計画	行動目標（学習目標）			
<p>【見学の概要】</p> <p>チーム医療について学び、リハビリテーションの専門職としての知識・技術の重要性・必要性を確認することで、病院で働く理学療法士・作業療法士の仕事や役割について理解し、職業人として望ましい行動や態度を取ることができるように注意して行動する。この経験によって、自身の将来像を具体化し、課題の再確認と動機を高めることを期待する。</p> <p>教育目標①「チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。」に対する行動目標 （認知領域）チーム医療について理解する。 （認知領域）チーム医療における理学療法士・作業療法士の立場と役割を理解する。 （認知領域）チーム医療における他専門職の立場と役割を理解する。 （認知領域）病院で働く理学療法士・作業療法士の1日の仕事の流れを理解する。 （運動領域）対象者との関係性構築に務める。</p> <p>教育目標②「代表的な疾患の症状や現象を観察する。」に対する行動目標 （情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 （情意領域）医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。 （情意領域）状況に即した言動を取ることができる。 （認知領域）代表的な疾患の症状・現象について見学し、自分の考えを他者に伝える。 （運動領域）必要に応じてメモに書き留めることができる。</p> <p>教育目標③「代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。」に対する行動目標 （情意領域）実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 （情意領域）医療従事者として自覚を持ち、患者に対し相応しい態度や対応がとれる。 （情意領域）状況に即した言動を取ることができる。 （認知領域）代表的な疾患に対する評価や治療を見学して、自身の考えを他者に伝える。 （認知領域）理学療法及び作業療法の一連の流れを理解する。 （運動領域）必要に応じてメモに書き留めることができる。</p>					
教科書	書籍名	著者		出版社	
	特に指定しない				
参考図書等	標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ 第3版	鶴見隆正 編集		医学書院	
授業方法	学内実習及び施設実習	成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価		
履修上の注意	目的を明確にして、自主性をもって取り組むこと。				